

## 母が教えてくれたこと

中 二一

私の母は中国出身です。中国で友人に紹介され父と出会ったそうです。父は日本人のため、母は私を出産後、日本で暮らすことに決めたそうです。そんな母は私に大切なことを教えてくれました。それは「人と仲よくなるのに国境は関係ない」ということです。

昔から不思議でした。母は中国人ですが、娘の私でも分らないほどに日本語が上手です。しかし、ある一つのことが違うため母が日本人ではないことを実感します。そのたった一つのこととは「考え方の違い」です。例えば、人と話すときは声が大きく感じます。中国語で話しているときには特に大きく感じます。ときには「怒っているのかな」と思い、後で内容を聞いてみると「〇〇が結婚した」という喜ばしい内容だったということがありました。どうして大きい声で話すのか尋ねると、「自分の気持ちを伝えるため」だそうです。家の近所にアジア系の留学生が生活するア

パートがあります。早朝や夕方になると自転車で私の家の前を通過しますが、家の中にいる私にも内容がわかるぐらいに大きな声で話しながら通っていきます。また、私の家の近くには、外国人が多く働く物流センターがあるので、やはり大きな声で話をしている人が多い印象があります。母によると「自分はここにいる」という存在を主張するためにも声が大きくなってしまおうそうです。日本育ちの私からすると、「うるさいな」、「周りのことを考えないのかな」などと思ってしまうのですが、これは日本人の「人に迷惑をかけてはいけない」という根本からの考えなのだと思います。母は日本で生活し始めて数年は、近所の人も一切話したことがなかったそうです。しかし、東日本大震災が起きた日、今まで地震を経験したことがない母は驚いて、私を抱いたまま、裸足で家を飛び出したそうです。すると、それを見た隣の家的女性がサンダルを渡してくれたそうです。母はこのことを私に話すとき、自分のことだけでなく人のことまで気を遣えるその女性に感動したと教えてくれました。母は自分がその女性に立場であつたら、何もできないと教えてくれました。

一方で、日本人の「譲り合い」の考え方に母は疑問をもったそうです。電車で体が不自由な方や高齢の方に席を譲るのは中国ではありえないことだと話していました。そんなことをしたら自分が座れなくなってしまうのではないか、と思ったそうです。また人にプレゼントなどを渡すときに「つまらないものですが」と自分が渡すものを謙遜することが不思議だそうです。中国では「これはすごくいい物だよ」と自分が渡すものをよく見せることが普通だそうです。

このように、中国出身の母は日本で暮らし始めてから、考え方の違いを知りながら日本人のよい部分を多く感じてきたようです。同時に日本育ちの私からすると当たり前だということが、母からすると不思議に感じることもあります。一方で、海外出身の人にとっては当たり前だということが、日本育ちの私たちからすると、不思議であったり、ありえないことであったりするのだと思いました。

世界には百九十以上の国や地域が存在します。それぞれの国出身の人だからこそ、もっているよい部分があると思います。考え方の違いから非常に識に思えることがあるかもしれませぬ。だからと

いって相手を否定するのではなく、今まで自分になかった考え方をもっているのだと思うことで、多くの人とよい関係を築いていけるのだと思います。母がどんな人にもよいところがあることを教えてくれたように、国籍が違っていても人は仲よくなれると信じ、多くの人と関わっていききたいと思いました。